

夏の実践研修会のご案内

期 日 令和6年8月7日（水）8：30～16：00

内 容 ・午前 公開授業（国・算・道・外）＋ 教科別授業研究会（国・算）
 ・午後 各教科等授業づくりセミナー ※道・外は午後のユニットで研究会を行います。

【日程】

8:00	8:30	8:40	8:50	9:35	9:50	11:10	11:30	12:15	13:30	15:55	16:00
受付	全体会 オリエンテーション	休憩	公開授業Ⅰ	休憩	授業研究会	休憩	公開授業Ⅱ	昼食	各教科等授業づくり セミナー（各60分）	閉会 行事	
			国語 算数		国語 算数		道徳 外国語		ユニット 1	休憩	ユニット 2

申し込み 参加費は1000円。（来校で一日参加される場合）
 午後の各教科等授業作りセミナーはオンラインでも公開します。（オンライン参加は無料）
 右のQRコードからお申し込みください。

申し込み切 令和6年7月31日（水）
 ※締め切り日以降も申し込みは可能ですが、資料準備のため、ぜひ事前申し込みをお願いします。なお、締め切り日以降にお弁当の注文はできません。



後援 熊本県教育委員会
 熊本市教育委員会

令和6年度 研究発表会のご案内

期 日 令和7年2月14日（金）

全体会講師 香川大学 准教授 岡田 涼 先生



- 著書
- 『やる気をひきだす教師：学習動機づけの心理学』（金子書房）
 - 『自ら学び考える子どもを育てる教育の方法と技術』（北大路書房）
 - 『教師として考えつづけるための教育心理学』（ナカニシヤ出版）
 - 『子どもと大人の主体的・自律的な学びを支える実践』（福村出版）

附属小学校ホームページのご紹介

新しいコンテンツ続々登場!!

● 授業研究最前線

臨場感あふれる各教科の取り組みを随時更新します。

● 実践・研究ブログ

校内で行われた最新の授業実践が掲載されます。



©2010熊本県くまモン

ホームページ

<https://elem.educ.kumamoto-u.ac.jp>

熊大附属小 検索

研修会・講師に関する お問い合わせ先

校内研修や研究会の講師として本校教員をお考えの際は、電話か次のアドレスにお問い合わせ下さい。



satoshi@educ.kumamoto-u.ac.jp

（教頭 岩永 聡）

2024 附属小 研究だより



ご挨拶

本校では、「学びをたのしみ自律共創する子ども」の姿を目指し、3年間にわたり、様々な角度から研究を重ねて参りました。「学び」の原点にこだわり見えてきたことは、子どもたちが対象や他者と関わる中で、子ども一人一人の主体的な学習環境をいかにデザインしていくかということでした。昨年度の研究発表会では、「学習の個性化」に焦点を当て研究を進め、その成果の一端をお見せすることができたのではないかと考えています。

しかし、「学び」の研究は奥深く、子どもたちが「学びをたのしむ」姿について教師の共通認識の精度を高めつつ、子どもたちの変容を確認しながら、更なる授業改善を図っていかねばなりません。そこで、今年度も引き続き同じ研究テーマの下に研究を深めるとともに、夏の実践研修会及び研究発表会でその研究の方向性をお示しする予定です。

私たちの研究が、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた取組み事例としてのご提案につながれば幸いです。ぜひ、多くの皆様にご参加いただき、本校の研究に対する忌憚のないご意見、ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

教科等研究紹介

学びをたのしみ自律共創する子どもの育成を目指して

研究部長 是住 直人



「子どもたちは学びをたのしんでいるのだろうか。」私たちの研究はこの問いからスタートし、今年度4年目を迎えました。昨年度の2月には、研究発表会を4年ぶりに対面で開催し、私たちの研究の一端を生徒の授業でお見せすることができました。参観者の方々と共にたのしく学ぶことができ、実り多き時間となりました。多くの方々のご参加ありがとうございました。

私たちが研究を進める中で、子どもたちが夢中になって目の前の対象と向き合い、探究する姿をたくさん見てきました。特に昨年度は、学習の個性化を支える学習環境を中心に研究を進めてきた結果、以下の2点が成果として見えてきました。

○子どもが問いや思いを抱く活動を教師が設定するとともに、その活動を促進する視点や課題の解決方法を子ども自ら選択できるようにすることで、自己の学びを調整しながら学ぶことができる。

○図・言葉・身体等の表現を介して、働かせている見方・考え方を顕在化させることで、活動中の無自覚だった気づきを共通の土台として対話を促進することができる。

今年度は上記の研究成果に磨きをかけていくことに加え、子どもたちが学校で共に学ぶことの意味やその学びを支える教師の役割を問い直していきたいと考えています。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が求められている今だからこそ、子どもたちの学びを支援する伴走者として私たち教師は何ができるのかをもう一度考える必要があると思っています。そのために、子どもたちがより深く、より豊かに学んでいくための教師の授業中の役割や授業と授業をつなぐ手立てについて研究を進めて参ります。

国語科

言葉に立ち止まり「創造」をたのしむ子どもの姿を目指して

溝上 剛道 木下 忠志 廣田 健生



昨年度から「自ら「創造」をたのしむ国語科学習」をテーマとし「表現と理解」を往還する学びのプロセスを研究してきました。3年「まいごのかぎ」では、インタビューという言語活動に取り組みました。「わたし」と「りいこ」の立場でやり取りする中で、人物の心情に対する個々の理解にずれが生じていました。すると、ある子が「例えば…」と自分の体験と結び付けて語り始めたのです。

この体験と結び付けた「想像」は「創造」の源です。そして、その営みは言葉に立ち止まり、テキスト・他者・自己との対話の中で生まれていきます。そこで今年度は、他者と共に自ら「創造」をたのしむ学びを生み出していくために、より「表現と理解の相互循環」の活性化を促す対話の手立てや言語活動デザインについて研究を進めていきます。



生活科

見方を広げていく子どもたちを目指して

芦原 玲子



1年「だいつ大プロジェクト」では、大豆製品の製造者の方たちとの関わりの中で「なぜ手間がかかることをわざわざするのか」という問いが生まれ、製造者の方の努力や工夫、それらの根底にある思いに気付くことができました。

本校生活科では、子どもたち一人一人の気づきの質が高まっていくことを目指します。そのために、対象に関わり続けたいような課題設定や単元構成の工夫、子ども同士のかかわり合いを生み出す手立てについて探っていきます。対象や他者と繰り返し関わることで新たな視点を獲得し、見方を広げていく子どもたちを育てていきたいと考えています。



社会科

子どもが自ら社会とかかわり続ける社会科学習

白石 和真 安倍 堅介



5年「自然災害」の単元で、全国の風水害の被害やそれらに対する公助について調査していく中で、公助の内実を目を向けながらよりよい公助にするための視点を広げていきました。さらに、国や県、市民等の様々な立場から多角的に風水害や公助の在り方を捉え直していく姿がありました。

本校社会科では、単元導入で既知の知識とずれが生じる資料の提示や体験活動等を行った上で、よりよい社会を目指すための主題を設定することを大切にしています。また、単元を通して行う活動を子どもたちと共に設定し、試行錯誤する中で、自己有用感を感じながら社会とかかわり続けるための工夫について研究を進めていきます。



音楽科

よりよい音楽表現を追求し続ける子どもを目指して

上原 正士 馬場 美香



4年「サウンドキッチン」では、新聞紙を使ってできたお気に入りの音をサンプリングし、料理の様子を再現する音楽活動をしました。試行錯誤する中で、音と音の間をなくすことで「料理名人の調理の様子」を表した作品に出会い、間という視点で工夫していきました。

本校音楽科は、子どもが音楽の学びをたのしむことができる魅力的な教材の開発と、自ら学びを切り開いていく子どもを育てるための手立てについて研究しています。特に今年度は、音楽的な見方・考え方を働かせながらよりよい音楽表現を追求し続けるための指導と評価の一体化について明らかにしていきます。



算数科

新たな「数学的価値」を生み出す算数科授業とは

内田 武瑠 津川 郷兵



4年「図を使って倍の見方を広げよう」において、自分と友達の通学時間の関係を倍の見方で捉える中で、子どもたちは、0.4倍になる関係を見つけ、その意味を考察していきました。単元の学びの中で子どもたち自身が考え出した数学的表現を自ら選択し、駆使しながら、0.1にあたる大きさを捉え、倍の意味を拡張していきました。

本校算数科では、子どもたちが問いや思いをもち、繰り返し対象や他者と対話する中で新たな数学的価値を生み出す姿を目指します。そのために、自然な学びの文脈をデザインする単元構成の在り方や数学的表現を用いて他者と対話し課題解決するための工夫について研究を進めていきます。



理科

子どもが自然事象に関わり続ける姿を目指して

赤星 愛 柿原 智明 吉田 沙也加



4年「とじ込めた空気や水」の単元において、空気と水の性質を利用し、水をより遠くに飛ばしたり長い時間飛ばしたりできる水鉄砲にする活動を行いました。その条件を探る中で、「ペットボトルに押し込んだ空気は満員のバスみたいだが、水は押し込めないからもともと満員になっている」と、質的・実体的な見方を働かせながら空気と水の性質の違いを見いだしていきました。

本校理科では子どもが観察、実験を計画し、実践する中で、科学者や技術者が辿る文脈を追体験できるようにしています。その中で、子ども一人一人が思いをもって自然事象に関わり続ける単元構成について研究を進めます。



図画工作科

自己実現へ向かう探究的な造形活動を目指して

安田 晶子



図画工作科は、色・形・イメージをつなぎながら創造的な活動を重ねていく教科です。その造形活動は自己実現の場でもあることから、より探究的であることを目指しています。同時に、それぞれの感性を尊重し合える仲間との関係構築により、考え方の多様性を理解し共生へと向かう素質を育むことも大切にします。

本校図画工作科では、探究的な創造へと向かうための手立てについて、研究を進めていきます。その中で、友人等との関わりの中で相互に認め合い、高め合いながら、材料や道具などあらゆる造形環境とつながり、自己実現へと向かう子どもの姿を目指します。



本校職員が執筆する刊行物のご紹介

- 溝上 剛道・木下 忠志
「教育科学 国語教育 2024 年 5 月号」新教材・定番教材の授業がもっとうまくいく！「最強板書」80（明治図書出版）
- 溝上 剛道
「実践国語研究 2024 年 4 月～2025 年 3 月号」【連載】子どもの意欲を高める授業アイズブレイク(明治図書出版)
- 津川 郷兵
「新しい算数研究 2024 年 6 月号」自ら状況をつくり出すことにより生じる学びの文脈（東洋館出版社）
- 吉田 沙也加
「明日から使えるミライシード」友達の表現の素敵などところを取り入れよう！（時事通信出版局）
- 上原 正士
「教育音楽 小学校版 2024 年 6 月号」私の教材調理法 3 年「リコーダーの導入」（音楽之友社）
- 山平 恵太
「道徳的諸価値の深い理解」[2024 年夏頃発売](北大路書房)

特別の教科・道徳

「なりたい自分になる」子どもを育む授業

山平 恵太



5年生「真の看護を求めて～ナイチンゲール～」の実践では、偉人の生き方を通して真理を探究する上で大切な思いを話し合い、本当のことを知りたいという思いの大切さに気付く姿が見られました。

本校道徳科は、道徳科学習を要として「なりたい自分になる」子どもを育む授業を提案します。子どもが学びの連続性を捉えることができるよう前時の振り返りから価値との接点を見出していきます。さらに「子どもの話したい」という思いを生かした場の設定と、物事を多面的・多角的に捉えていく立ち止まりを促すことにより、教材、道徳的価値、他者を媒介として自己を見つめ直すことができるようになります。



外国語活動・外国語

コミュニケーションの「おもしろさ」と「大切さ」とは

福永 真紀子



外国語活動・外国語科で、外国語を用いて伝え合う様々な活動が生み出されています。しかし、子ども自身が学習活動の意味やつながりを見いだせないことや、活動の中でやってみたコミュニケーションを振り返ることによさを感じていないことなどが課題として挙げられます。

そこで、今年度も、子どもが必要感をもって学べる題材設定と、主体的に活動できる学習環境の工夫を考えていきます。さらに、子どもの困り事に寄り添う課題設定の在り方についても研究を進めていくことで、表現の多様さに気付いたり「外国語で伝えてみたい。」「分かってたい。」と願ったりする子どもの姿を目指します。



保健・健康教育

自他の行動のよさを自覚し、健康に関わり続ける子どもを目指して

村上 朋美



4年「体の成長とわたし」では、発育・発達と健康とのつながりに目を向け、自分にとって必要な行動は何かを考えました。自他の生活を比べたり、健康と行動を関連付けて考えたりすることを通して、自分の行動を捉え直し、生活状況に合った健康への取組を工夫していく姿がみられました。

本校の保健・健康教育では、子どもたちが、自分や友達の行動のよさに積極的に目を向け、健康に過ごすことの価値を見いだす学びを大切にしています。今年度は、他者とかかわりを通して、自分の健康行動の有効性を客観的に確認し、目標の調整と行動の再実践をする中で得た気づきを基にしながら、健康に関わり続ける子どもの姿を目指します。



栄養・食育

自分の食生活を見つめ、考え、実践する姿を目指して

上月 直美



昨年度は、食に関する指導の重点目標を整理し、目指す子どもの姿を明らかにしました。その姿の達成に向けた5年「見直そう！1日の食事」の実践において、自分の食事を3つの働きをもつ食べ物や1日に食べる目安量という点で捉え直したことで、栄養バランスのよい食事について理解を深め、自分に合った食事のとり方を考えることができました。

今年度も小学校6年間の学びを見通しながら、各学年の重点目標を意識した学年間の系統を大切にしていきます。さらに子どもたちどうしのかかわり合いを通して、自分の食生活を多角的に見つめ、よさや問題点に気づき、意思決定し実践していく姿を目指していきます。

